

第 1 回 三番瀬評価委員会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成 18 年 5 月 19 日（金）午後 6 時 30 分から 8 時 55 分
- 2 場 所 船橋市民文化創造館（きららホール）
- 3 出席者 委員 9 名
- 4 参加人数 46 名
- 5 結果概要

（ 1 ）委員等の紹介

事務局から委員等を紹介

知事の指名により細川委員が座長に、細川座長の指名により蓮尾委員が副座長に選任された。

（ 2 ）三番瀬評価委員会の設置と役割について

県から三番瀬のこれまでの経緯、再生会議設置要綱、評価委員会運営要領により、評価委員会の設置と役割のあらましについて説明した。

県からこれまでの環境調査結果の概要等について説明し、今後の調査手法や評価手法等が議論された。

（主な意見）

「自然環境の定期的なモニタリング手法の検討及びモニタリング結果に基づく三番瀬の全体の影響の評価」に関わる事項

- ・ 評価をする場合、測定法ごとの誤差を考慮に入れる必要がある。
また、誤差を、定点・面的に見るような議論ができるとよい。
- ・ 現況を理解し、傾向を予測するために、どういうデータをとって、どう解析するかという課題がある。
- ・ 再生の目標や基準を押さえて、調査頻度などをどうするかという検討が必要である。再生会議のほうでも、どうすべきかという議論が必要である。
- ・ モニタリングについては、ある部分は密に、ある部分は疎にするなど、項目の必要性を含め話し合っていくとよい。
「再生事業の実施に伴う周辺環境への影響予測、モニタリング手法に対する意見及びモニタリング結果に基づく影響の評価」に関わる事項
- ・ 影響予測や環境保全措置等については、まず事業実施者が事業の一環としてアセスメントを実施した上で、評価委員会が検討するべきもの。
白紙の状態から評価委員会に委ねられるものではない。
- ・ 市川塩浜護岸の検討状況を、評価委員会にも情報提供してほしい。

- ・市川塩浜護岸の景観等への影響はある程度コメントできると思う。
- ・事業の実施に伴う鳥類への影響予測は、非常に難しい。

会場から、

景観については知と情のバランスがあり知が偏重される傾向は再検討してほしい、江戸川放水路についても調査対象としてほしい、再生のために環境の評価のメルクマールを設定してほしい、評価委員会の発足に期待する、計画を提案した者が評価するというのはやりにくくないか、等の発言があった。

(3) 報告事項について

県から千葉県三番瀬再生計画(基本計画案、事業計画素案)について、報告した。

(4) その他

次回の評価委員会は、再生会議からの検討指示事項などを踏まえ、座長とはかり、開催日時等を決定することとした。

(座長のまとめ)

再生会議から評価委員会への指示は、目的、検討課題など具体的なものとしてもらうようお願いする。

個別の事業については、環境への影響など、計画をつくる側が整理するようにしてもらいたい。

再生会議からの指示に対し、なるべく早く検討を行うこととするが、検討に時間を要するものも出てくる。

三番瀬全体の評価・手法については、コスト面も考慮して、今後、議論し整理していく必要がある。

市川塩浜護岸の検討状況を、評価委員会にも紹介してもらいたい。

本日の評価委員会における議論については、座長がとりまとめて、次回の再生会議へ要望を含めて報告する。

以 上